

カーシェアでしょ！

～つくばチャイモリモビリティの推進～

【メンバー】川辺 晃大（班長）・志田 雄毅（副班長）・新内 すずみ（渉外）・鈴木 良介（議事録）・富尾 祐作（印刷）・本江 遼亮（データ）・和田 桃乃（書記、配布資料作成）

【担当教員】谷口 綾子 先生 【担当 TA】藤本 宣

1. 現状・背景

自動車の普及により、交通事故や渋滞はもちろんのこと、自動車に依存した都市形成による土地利用の変化や自動車利用者自身の健康状態など、問題は日々多様化している。自動車を利用できる環境にある私たちは自動車を使わない（所有しない）「社会的メリット」と自動車を使う（所有する）「個人的メリット」の中で葛藤する。ここで喫緊の個人的メリットを優先することで、現在や未来の社会全体の益に目を瞑る「社会的ジレンマ」が発生する。

当班では「カーシェアリング」の有用性に着目し、筑波大生・教職員を主なターゲットに据えて運営されている「カーシェア・つくば」を取り上げることで、筑波大生・教職員に内在する自動車における社会的ジレンマの解決を実習の基本方針とした。実習を始めるにあたって「カーシェア・つくば」の運営元であるユーピーアール株式会社様に運営の現状をヒアリングしたところ、筑波大学内での加入意図は低いことが分かった。そこで当班では、「カーシェア・つくば」の利用意図向上が今回の社会的ジレンマの解決に不可欠であると判断した。

2. 目的

本実習では学生・教職員という立場での利用者目線を取り入れた PR 活動と新ステーションの設置および超小型 EV の導入検討を行うことによって、2つの目的を果たす。まず「カーシェア・つくば」無関心層学生・教職員への加入

3. 仮説

当班ではつくばの自動車における社会的ジレンマが有用な手段を講じた際解決されるとして、以下の3つの仮説を立てた。（表1）

以上の仮説を達成するための具体的方法として

【A: PR ツールの改善】 【B: 新ステーション設置とそのステーションに配

仮説1	「カーシェア・つくば」のメリット等をよりうまく伝えられるようにPR ツールを改善すれば加入意図は向上する。
仮説2	潜在的な利用者が多く存在する場所に新たにステーションを設置すれば加入意図は向上する。
仮説3	超小型 EV という未来型モビリティの利用が可能となれば加入意図は向上する。

置する超小型 EV 導入の検討】を挙げる。

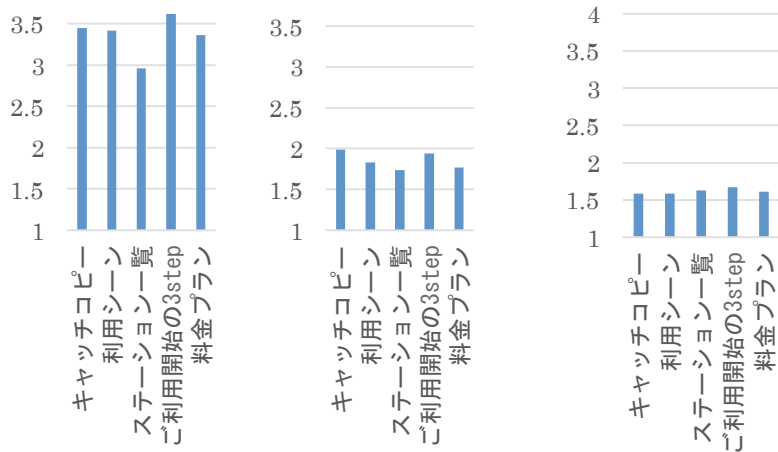
表1：仮説

4. 調査計画・今後の予定

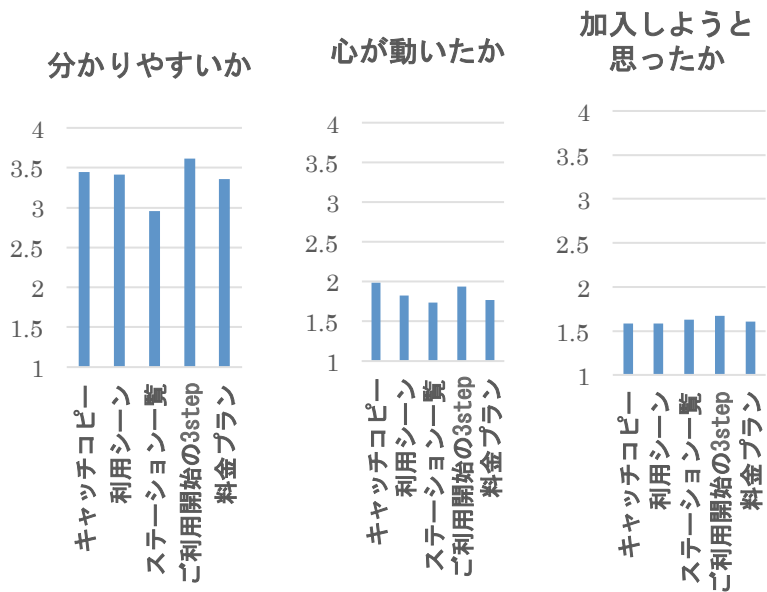
おおまかな調査計画とその実施報告、これからの予定を以下に示す(表2)。実習をはじめると同時に「カーシェア・つくば」の現状を知るためにユーピーアール株式会社様へのインタビューと筑波大生への印象調査を行った。そこで得た情報をもとに「カーシェア・つくば」の問題点を洗い出し、A: PR ツールの改善と B: 新ステーション設置・超小型 EV 導入の2つのアプローチでジレンマ解決に取り組む。(表2)

中間発表後は既存チラシに対する印象アンケートをもとに、潜在利用者が本当に知りたい、且つ興味関心を惹くような「カーシェア・つくば」に関する情報を載せた新しいチラシを作成し、その有効性を実証調査する。その実証調

導
を
の
有
い
ジ
促
用
の
利
際
の
し
も
が
は
一
と
い
→



【学生】5段階評価



【教職員】5段階評価

図1：チラシ情報コンテンツ別の評価（学生・教職員）

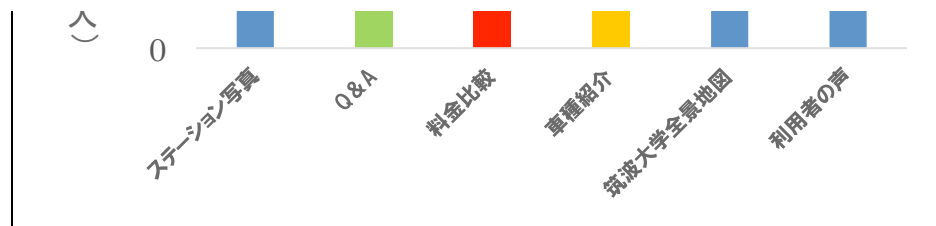


図2：「カーシェア・つくば」に関して更に知りたい情報

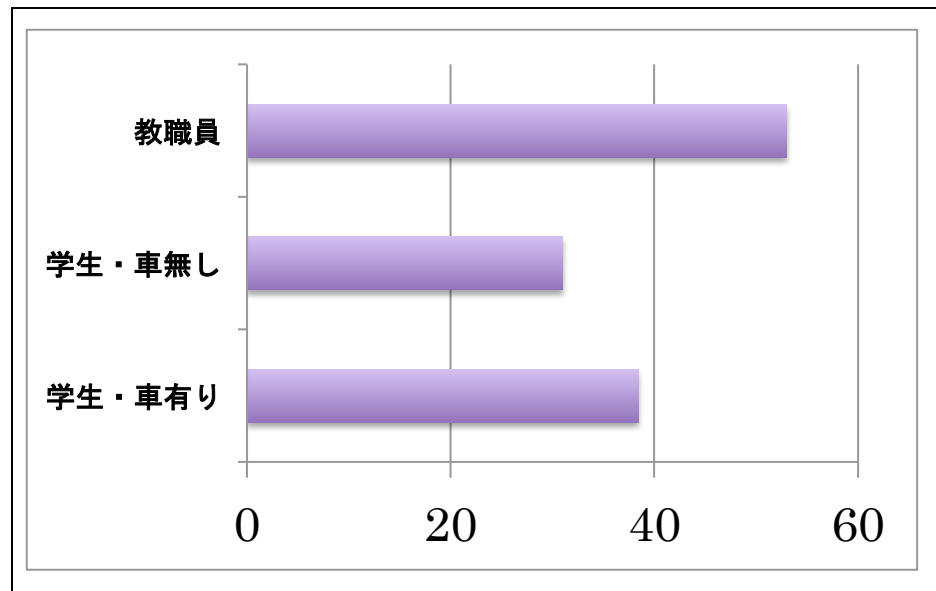


図3：「車を持つ場合とカーシェアの料金比較」の5段階評価（内訳）

【つくば市ヒアリング】

質問	回答
無料20分駐車場の一部をカーシェアリング用の車を置くために、1・2台分スペースを確保して頂くことなどは可能か。その場合の費用などは？	難色。 地下駐車スペースで貸し出し料金は概算で13800円/月 過去につくば市が行ったカーシェアの実験結果がよくなかった。
現在つくば市では、超小型モビリティ	小型モビリティ自体の借用期間が来年度の1月まで

【
・
・『
良
・
・『
・行
・ニ
『
・
＜
・ラ
・